

都道府県名	岡山県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	笠岡市立大島小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	2	1	1	2	2	1	10	17
児童数	37	42	32	36	53	45	2	247	

研究の概要

1. 研究主題

<p>自ら学び、ともに高まり合う みたけっ子 - 生き生きと活動し、学ぶ楽しさを実感できる算数学習 -</p>
--

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

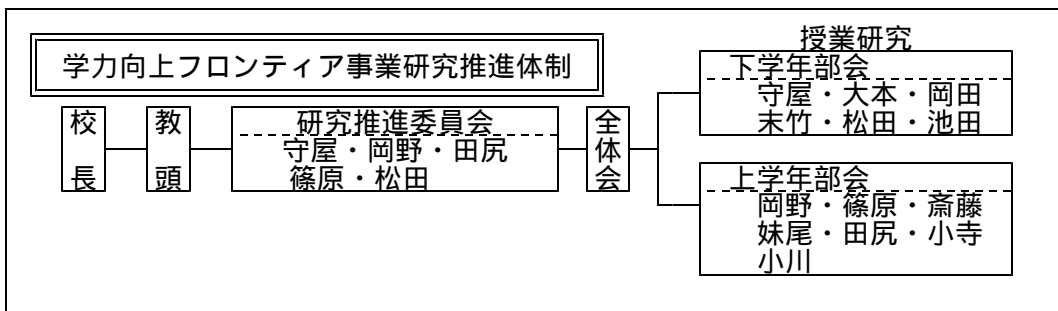
<p>全学年で実施 算数（系統性があり、子どもの理解度に差が出やすい教科であるため）</p>

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 自ら学び、ともに高まり合う みたけっ子 - 生き生きと活動し、学ぶ楽しさを実感できる算数学習 -</p> <p>研究の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童の興味関心や意識の流れを大切にしながら単元構想や学習過程を工夫すれば、主体的に活動に取り組み、算数の楽しさや充実感を味わわせることができ学力の向上につながるであろう。 ・ 児童が自分なりに試行錯誤したり、友達とかかわり合ったりできるように、指導形態や教材教具の開発を図り、そこでの支援を工夫すれば互いのよさを認め合いながら基礎基本の確実な定着に向けて高まり合うことができるであろう。 <p>研究の内容・方法</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 意識の流れを大切にしながら単元構想の工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童の「問い」を生かした単元構想 ・ 単元全体を見据えた素材や問題の開発 (2) 効果的な算数的活動の導入 <ul style="list-style-type: none"> ・ 主体的な学習態度を促す算数的活動の検討 ・ 内的活動、外的活動の効果的な導入 (3) 基本的学習過程と教師の支援 <ul style="list-style-type: none"> ・ 学力定着に向けた学習過程のあり方（コース別学習の指導法） ・ 個が生きる教師の支援 (4) 発展的な学習や補充的な学習の導入 <ul style="list-style-type: none"> ・ 興味関心を高めるための教材の開発や導入場面の検討 ・ 基礎基本の確実な定着をめざした補充的な学習のあり方 (5) 指導体制・指導形態の工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・ 少人数指導、習熟度別指導、TTによる指導 ・ 教材教具の工夫と開発 ・ 学習スペースの効果的活用 (6) 指導に生きる評価の工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・ 実態把握を生かした評価の工夫 ・ 評価場面と評価方法
--------	---

平成16年度	<p>テーマ 自ら学び、ともに高まり合う みたけっ子 - 生き生きと活動し、学ぶ楽しさを実感できる算数学習 -</p> <p>研究の見通し 児童の興味関心や実態を的確にとらえた単元構想や効果的な算数的活動を積極的に導入した授業を構築していくことで児童一人一人に学ぶ意欲を培うとともに、少人数指導、習熟度別指導等を通して個に応じたきめ細かな指導をより一層充実していけば、学習内容の確実な定着を図ることができ、学力向上につながるであろう。</p> <p>研究の内容・方法 (1) 学ぶ意欲を培い、主体的に学習に取り組む指導方法の工夫 ・意識の流れを大切にした単元構想 ・効果的な算数的活動の導入 ・基本的学習過程の設定と定着 (2) 基礎基本の確実な定着をめざした指導方法の工夫 ・学力定着に向けたコース別学習の指導法 ・個が生きる教師の支援のあり方 (3) 個に応じた指導のための指導方法、指導体制の工夫 ・少人数指導、習熟度別指導、TTによる指導 ・発展的な学習や補充的な学習の導入 ・教材教具の工夫と開発 (4) 個を生かし、指導に生きる評価の工夫 ・指導と評価の一体化 ・評価場面と評価方法の研究</p>
--------	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

- ・ 児童の実態や発達特性を的確に把握し、単元構想を工夫し、算数的な活動を効果的に取り入れた授業を構築してきたことは、児童一人一人の興味関心や活動意欲を喚起し、算数学習の楽しさを味わわせることにつながったと考える。児童へのアンケート調査結果から、算数に興味関心を示す児童は、全体の78%にのぼった。
- ・ 少人数による習熟度別学習は、少人数のよさを生かした児童一人一人の適切な実態把握と指導の手だてが可能となり、学習内容の定着もより確かなものとなっている。学力検査から、少人数による指導を継続的に実施してきた学年の数値は全国平均を上回る結果を得た。

2. 今後の課題

- ・ 児童の意識の流れを一層大切にし、学ぶ意欲をより喚起していくことのできる楽しくダイナミックな算数的活動の研究開発や単元構想のより一層の工夫に努め、算数の授業を感動のあるものにしていく必要がある。
- ・ 学力向上に向け少人数指導による習熟度別学習を充実したものにしてい

で、児童の実態に即したコースごとの基本的な指導過程の確立、単元の特性を考慮した指導形態の工夫や有効性の模索を今後とも授業研究を通して進めていきたい。

- ・ 少人数指導による指導をより一層進めていく上で校内指導体制を確立していくことが望まれる。来年度からは、全学年で児童の実態に応じたきめ細かな少人数指導が可能となるように校内の指導体制を整備し研究を深めていきたい。

学力等把握のための学校としての取組

定期的な学力検査の実施と分析（平成15年度 年2回実施～6月、3月）
児童への学習に関わるアンケート調査の実施と分析（平成15年度 年1回実施）

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

2年間の研究の成果を平成16年度（平成17年2月）に研究発表会として公開予定。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無